

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視点 | 4年間の目標 (平成28年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月22日実施) | 総合評価(3月29日実施) | |
|----------------------|---|---|---|---|---|---|--|--|---|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | 基礎学力の充実に向けたバランスのとれた教育課程を編成するとともに多様な生徒の進路希望に対応する質の高い学習指導に取組み、生徒一人ひとりの学習機会の拡大を促進する。 | 基礎学力の定着および充実をめざした長期休業中の補習・講習などの学習機会の拡大を図る。 | ①基礎学力の向上を目指し、朝学習等を実施する。1年生においてはICTを活用し、家庭での学習機会の拡大を図る。長期休業中の補習・講習の設定は勿論、平日の補習等の機会の拡大を図る。 ②教室での情報機器の利用を促進するための環境整備について研究・実践を行う。 | ①多様な進路希望に対応できる内容の選択科目が編成できたか。基礎学力の定着が図られ、授業が分かる生徒や家庭学習の機会(時間)が増えたか。 ①教室での情報機器の利用を促進するための環境整備について研究・実践を行ったか。 | ①授業時間の確保に向けて平成29年度より「60分授業」を行うこととした。長期休業期間中及び放課後補習を充実させた。 ②校内アクセスポイントの設置及び全教室にプロジェクターを配備した。 | ①60分授業に対応した授業内容及び指導方法を検討する。 ②職員のICT機器活用スキルにまだまだ隔りがあるため、研修を充実する必要がある。 | (学校評議員) ①大学では1コマ90分が標準である。60分授業となることでより深い学びとなる。 (保護者) ②先進的な取組みをいっそう推進してほしい。 | ①学習クラウドサービスの活用により朝自習及び長期休業期間の学習課題の取組が向上した。 ②ICT利用環境が整備され、職員の活用スキルが共有化されたが、職員間でスキルの差があることが課題である。 | ①学習クラウドサービスの活用を一層充実させて、生徒が自身の学習ニーズに応じて主体的に学習する機会を拡充する。 ②ICT利活用に関する職員研修を行い、組織的な授業改善を推進する。 |
| 2 (幼児・児童・)生徒指導・支援 | ①自転車マナーの向上を積極的に進め、交通安全に対する取組みを組織的に推進する。 ②生徒の自主的・主体的な活動を支援し、豊かな人間性や社会性を培う活動内容の充実を図る | ①登下校における自転車運転におけるルール遵守、特に並走、二人乗り、傘さし運転の禁止を徹底する。またマナー向上を地域と連携し積極的に進める。 ②生徒会活動・委員会活動・部活動の活性化を推進する。 | ①地域、PTA、警察と連携を図り、交通安全教室、交通安全週間指導を行うとともに、南区自転車対策学校連絡会に参加し、自転車運転マナーの向上をはかる。 ②部活動加入率を上げ、委員会活動・実行委員会活動の学校行事との連携を一層強化させる。 | ①交通事故の件数を減少させることができたか。自転車の乗車マナーの向上がみられ地域からの信頼を得ることができたか。 ②部活動加入率が上がったか。生徒会選挙や麗鶴祭(体育の部・文化の部)の企画・運営に生徒が主体的に参加できたか。 | ①雨具携行を指導し、傘さし運転が減少した。交通安全指導を定期的に行い、乗車マナーの向上が見られた。 ②部活再加入を推奨し、年度途中の入部を積極的に受け入れた。体育祭グループ分けを平成29年度に向けて変更した。 | ①自転車乗車に関して近隣からの通報があり、交通安全意識の向上を引き続き指導する必要がある。 ②女子生徒の部活加入率向上が課題である。 | (学校評議員) ①登下校中は職員が目が行き届かないため苦勞されている様子が伺える。粘り強く生徒へ働きかけてほしい。 (保護者) ①家庭も学校も目の行き届かない場面での指導は大変である。命にかかわることなので今後も引き続き指導をしてほしい。 | ①自転車乗車マナーは改善されつつあり、傘さし運転等は減少しているが、引き続き交通安全指導は重点的課題である。 ②部活動の状況をホームページで紹介し、校内外に対して広く発信した。新入生の4月の加入率を引き上げることが課題である。 | ①交通安全指導は様々な場面において、継続して実施する。登下校安全指導について、DIG研修の実施を検討する。 ②「新タイプ部活動事業」によりヨガ同好会を発足し、部活動の活性化を図る。 |
| 3 進路指導・支援 | 社会的・職業的に自立できる力の醸成を図り、生徒一人ひとりが主体的に進路を考える姿勢を育むキャリア教育の充実を推進する。 | 職業観を培ったうえで、自己の将来に向けた展望を構築し、進路実現に向けて主体的に取り組むよう指導する。 | 職業観の涵養、展望の構築を目的とした進路行事を企画運営する。進路実現に向けた対策を生徒個別に講じる。インターンシップ等への積極的な参加を呼びかける。 | 各年次の進路行事において、生徒は主体的に取り組んでいたか。インターンシップ等への積極的に参加していたか。 | 各学年における進路行事の充実により生徒が将来に向けて展望を構築することができた。インターンシップの参加者が減少傾向にある。 | 推薦入試及びAO入試における志望理由書や小論文が苦手な生徒への個別指導が課題である。 | (学校評議員) 志望理由書、小論文について授業の中で思考力、表現力の育成を図ることで課題の解決につながる。 (保護者) 進路指導については先生方のマンツーマン指導にとっても感謝している。 | 来年度より志望理由書、小論文対策の業者教材を用いて継続的に指導することとした。今後、継続的な指導を行うことが課題である。 インターンシップの参加者増加に向けて早期から取り組む必要がある。 | 生徒個々の進路希望に応じた指導計画を作成し、個別指導の充実を図る。 インターンシップの受け入れ先の拡充を図り、生徒のニーズに応じて積極的に参加を呼びかける。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------|--|--|--|--|--|--|---|---|--|
| 4 | 地域等との協働 | <p>P T A と の 連 携、地 域、企 業 の 教 育 力 の 活 用 な ど に よ り 学 校 理 解 の 促 進 を 図 る と と も に、地 域 に 開 か れ た 地 域 と と も に あ る 安 全 ・ 安 心 な 学 校 づ く り を 進 め る。</p> | <p>① 地 域 と の 連 携 を 目 指 し た P T A 活 動 の あ り 方 を 模 索 し、活 動 の 活 性 化 を 図 る。 ② 広 報 活 動、体 験 学 習 の 更 な る と 充 実 を 図 る と と も に ホ ー ム ペ ー ジ の 更 新 率 を 向 上 さ せ る。</p> | <p>① P T A 活 動 に お い て、生 徒 会 や 自 治 会 等 の 地 域 と 連 携 し た 活 動 を 計 画 し 実 施 す る。 ② タ ブ レ ッ ト を 利 用 し た 個 別 相 談 の 実 施。 ③ グ ー グ ル ・ フ レ ン ド リ ー を 基 準 と し て、ホ ー ム ペ ー ジ を 再 構 築 す る。</p> | <p>① 生 徒 会 や 自 治 会 等 の 地 域 と の 連 携 に お い て、具 体 的 な 成 果 は あ が っ た か。 ② 紙 と タ ブ レ ッ ト を 比 較 し、効 果 的 な 利 用 が で き た か 検 証 す る。 ③ グ ー グ ル ・ フ レ ン ド リ ー ・ チェ ッ ク を 利 用 し て、改 善 で き た か。</p> | <p>① 福 祉 委 員 会 を 中 心 に ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 へ の 参 加 を 推 奨 し た。陸 上 競 技 部 生 徒 が 鶴 園 小 児 童 指 導 を 行 っ た。 ② 教 育 活 動 を 積 極 的 に 校 外 へ 発 信 し、ホ ー ム ペ ー ジ 更 新 率 80% を 達 成 し た。</p> | <p>① ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 範 囲 を 拡 大 を 図 る か、現 行 の 内 容 を 充 実 さ せ て い く か 検 討 す る 必 要 が あ る。 ② ホ ー ム ペ ー ジ の 情 報 を 閲 覧 者 が よ り 見 や す く な る よ う 一 層 の 工 夫 を 図 る 必 要 が あ る。</p> | <p>(学 校 評 議 員) ① 近 隣 の 小 中 学 校 と の 交 流 を 図 る こ と で ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 充 実 を 図 る こ と が で き る。 (保 護 者) ② ホ ー ム ペ ー ジ の 情 報 が 多 い た め 探 す こ と が 難 し い こ と が あ っ た。</p> | <p>① 鶴 園 小 学 校 と の 教 育 交 流 を 行 っ た。小 中 学 校 の 地 域 交 流 の 実 績 を 参 考 と し て、今 後 の 本 校 の 取 組 み 方 を 検 討 す る こ と が 課 題 で あ る。 ② ホ ー ム ペ ー ジ の 内 容 を 整 理 し て、発 信 し た い 内 容 と 閲 覧 者 が 必 要 と し て い る 内 容 と の バ ラ ンス を 考 慮 す る こ と が 課 題 で あ る。</p> | <p>① 近 隣 の 小 中 学 校 と の 教 育 交 流 を 積 極 的 に 図 り、ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 や 地 域 交 流 の 活 性 化 を 図 る。 ② ホ ー ム ペ ー ジ の 更 新 率 を 維 持 し つ つ、そ の 内 容 の 一 層 の 充 実 を 図 る。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | <p>① 生 徒 の 防 災 意 識 を 高 め、安 全 対 策 を 一 層 強 化 す る と と も に、地 域 と 連 携 し た 災 害 時 の 体 制 整 備 を 研 究 す る。 ② 教 育 環 境 の 変 化 に 迅 速 に 対 応 し、前 向 き に 課 題 に 取 り 組 む 組 織 の 育 成 を 図 る。</p> | <p>① 生 徒 に 災 害 時 の 行 動 を 考 え さ せ、か つ 身 に 着 け さ せ る。ま た、災 害 時 に お け る 地 域 と の 連 携 を 推 進 し、マ ニ ュ ア ル 化 す る。 ② 様 々 な 課 題 に 対 し て 横 断 的 に 取 り 組 む こ と の 出 来 る グ ル ー プ の 編 成 を 推 進 す る。</p> | <p>① 防 災 マ ニ ュ ア ル の 再 検 討 と 実 効 性 の あ る 防 災 訓 練 ・ 防 災 教 育 の 推 進 を 行 う。ま た、地 域 の 防 災 計 画 を ふ ま え た け る 学 校 の 防 災 体 制 を 検 討 す る。 ② 学 内 グ ル ー プ ウ ェ ア を 導 入 し、朝 の 打 ち 合 わ せ な ど の 情 報 共 有 や 連 絡 業 務 に つ い て 負 担 軽 減 と 効 率 化 を 目 指 す。</p> | <p>① 防 災 マ ニ ュ ア ル や 防 災 訓 練 ・ 防 災 教 育 の 見 直 し を、具 体 的 か つ 適 切 に 行 っ た か。ま た、地 域 の 防 災 計 画 を 具 体 的 に、防 災 マ ニ ュ ア ル や 防 災 教 育 に 組 み 込 ん だ か。 ② 学 内 グ ル ー プ ウ ェ ア を 導 入 し、朝 の 打 ち 合 わ せ な ど の 情 報 共 有 や 連 絡 業 務 に つ い て 負 担 軽 減 と 効 率 化 が 行 わ れ た か。</p> | <p>① 職 員 研 修 と し て 災 害 図 上 訓 練 (D I G) を 実 施 し、防 災 体 制 を 検 討 し た。 ② 学 内 グ ル ー プ ウ ェ ア 内 に 使 用 を 添 付 す る こ と で 資 料 配 付 の 効 率 化 が 見 ら れ た。</p> | <p>① 生 徒 向 け D I G 研 修 を 実 施 し 防 災 意 識 の 向 上 を 図 る 必 要 が あ る。 ② 学 内 グ ル ー プ ウ ェ ア の 活 用 状 況 が 職 員 に よ っ て 開 き が あ る こ と が 課 題 で あ る。</p> | <p>(学 校 評 議 員) ① 災 害 図 上 訓 練 は 生 徒 が 活 動 し な が ら 防 災 を 考 え る 機 会 と な る。来 年 度 は ぜ ひ 実 施 し て ほ し い。 (保 護 者) ① 防 災 教 育 に つ い て、家 庭 で も 考 え る 機 会 と し た い。参 考 資 料 等 を 家 庭 に も 提 供 し て ほ し い。</p> | <p>① 生 徒 向 け D I G 研 修 に 向 け て の 検 討 を す る。地 域 ・ 家 庭 と 連 携 し た 防 災 教 育 の あ り 方 を 研 究 す る こ と が 課 題 で あ る。 ② 学 内 グ ル ー プ ウ ェ ア の 活 用 に つ い て、職 員 か ら の 意 見 を 集 約 し て よ り 効 率 的 に 運 用 で き る 方 法 を 検 討 す る こ と が 課 題 で あ る。</p> | <p>① 年 間 を 通 じ て 防 災 教 育 計 画 を 作 成 し、地 域 ・ 家 庭 と 連 携 し た 防 災 活 動 を 展 開 す る。 ② 学 内 グ ル ー プ ウ ェ ア の 活 用 範 囲 の 拡 大 を 検 討 し 一 層 の 効 率 化 を 図 る。</p> |